

旧勝山城下の七里壁は市の指定文化財に

令和3年5月には、旧勝山城下の範囲に含まれる約1.5kmの七里壁の内、石積み部分の約800mを市の指定文化財として指定しました。

市民の生活を守り、市の良好な景観をたもつために、未永く保護をしていきます。

圖史蹟・文化課(教育会館2階)

☎88-8113

勝山城博物館・勝山市連携第7回共催展 城下町「勝山」～江戸時代の祭礼と災害から探る～ 開催中

江戸時代の人々が描き、書き記してきた城下絵図や町年寄り記など、勝山の城下町を知ることができる貴重な史料が展示されています。



期間▶10月3日(日)まで
(水曜日は休館日)

ところ▶勝山城博物館

入館料▶大人700円

小中高生260円

圖勝山城博物館 ☎88-6200

- ①伝統的な町屋が残る本町どおり/勝山の町並みは、七里壁を巧みに取り込んでいます。七里壁の上には城や武家屋敷、下には町家や寺院が配置されています。
- ②市内に残る大清水(本町2)/勝山城下町に湧き出す伏流水のひとつです。かつては、神明神社、国泰寺、岸の下、義宣寺など石垣下にも湧水があり、勝山は水の町だったのです。
- ③義宣寺横の石垣/九頭竜川の川原石が5～6m程きれいに積み上げられています。



当時の町並みを伝える「元禄時代勝山町図」(市指定文化財)。この絵図に描かれた七里壁をみると、勝山城へと向かうメインストリート大手坂(現在の商工会議所裏)の南側に石垣らしき表現が見られます。勝山城下町では、この七里壁を境に上の段丘面に城や武家屋敷、下の段丘面に寺社、町屋を配置し、城下町を築いています。七里壁の石垣は、勝山城下町の見栄えや七里壁の崩壊を防ぐ目的などから、長い年月をかけて、現在のような石垣に整えられていったのでしょうか。

七里壁の石垣は勝山城下町の繁栄を伝え、今も独特の景観をつくりだしています。

特集 日本遺産 福井・勝山 石がたり

築かれた旧勝山城下町を探る

令和元年5月に日本遺産として認定を受けた「福井・勝山 石がたり」
今月の特集では、日本遺産の構成文化財でもある旧勝山城下町のはじまりや七里壁に築かれた石垣の理由などを探りながら、勝山の町並みの魅力について考えます。

圖史蹟・文化課(教育会館2階) ☎88-8113



日本遺産の詳細はこちら

勝山城下町のはじまりと七里壁の石垣

1580年(天正8)年に柴田勝安が勝山(当時は袋田村)に城を築きました。これが勝山城下町のはじまりです。

勝山城下町は、九頭竜川がつくり出した「河岸段丘(*)」という地形を利用して築かれています。

その頃の様子はよくわかっていませんが、1600年頃までには袋田町、郡町、後町の3つの町ができています。このうち郡町は、その名のとおり、村岡山城の麓、郡村から移住してきた人々が住んだようです。さて、勝山では、なぜ七里壁(*)に石垣ができたのでしょうか。

1691年(元禄4)に小笠原貞信が入り、勝山藩が成立しました。

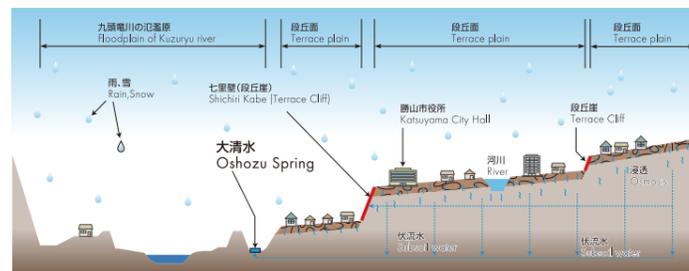


元禄時代勝山町図(市指定文化財)

*河岸段丘と七里壁

勝山の河岸段丘は、数万年前に主に九頭竜川の浸食と堆積、土地の隆起が繰り返されて形成され、2〜3段の平らな面(段丘面)と急な崖(段丘崖)が見られます。

急な崖は、九頭竜川に沿って勝山から永平寺町まで断続的に約20数km続き、総称して「七里壁」と呼ばれています。



勝山市街地の模式的な地形断面図



恐竜渓谷ふくい 勝山ジオパーク
DINOSAUR VALLEY FUKUI
KATSUYAMA GEOPARK